

MAST

Mikawa Akabane Shizuoka Toyohashi

岡崎教区広報誌

2024年9月

第11号

発行所／真宗大谷派岡崎教務所

発行人／錦 秀見

編集／教区教化委員会メディア部会

印刷／ブラザー印刷株式会社

東三河地域教化センター活動紹介

豊橋別院紹介

「熊野観心十界曼荼羅」絵解き

共学研修室始動のお知らせ

岡崎教区青少幼年教化通信



東三河地域教化センター活動紹介

〈事務局〉

第5組 願照寺 がんしょうじ

柴田 しばた 俊史 としふみ

岡崎教区では教区内4別院に「地域教化センター」という組織が置かれ、それぞれ教化事業を行っています。今回は豊橋別院を拠点とする東三河地域教化センターの活動を紹介いたします。

教区内に別院を拠点とした「地域教化センター」を設置するという構想が2007年の赤羽地域からスタートしたとすれば、すでに17年の時間が経過していますが、東三河地域教化センターの歩みは他地域と比べて険しい道のりだったかもしれません。

設置当時の輪番は「そもそも別院は教化センターである。教区から強制されるものではない」という理念を持ち、地域からは「別院の教化センターになるだけで、地域のものとなるのか」、「東三河4・5・6組でもそれぞれに教化活動をしている。必要性を感じない」といった意見もあり、設置運営の合意形成までに時間を要しました。

当初は他地域と同様にいくつかの部門に分けて事業を計画、実施していくこととしましたが、

軌道に乗ることはなく、数年前からセンター長（輪番）、主幹1名、崇敬区内の組長3名による運営委員会を置き、年度の事業計画の検討などをし、事業ごとに地域の若手僧侶たちの協力を得る体制をとっています。そのような紆余曲折を経て、現在実施されている教化センター事業を紹介します。

まず、「聖教学習会」。若手僧侶たちが自らテーマ、講師などを選び、「歎異抄に聞く」と題した連続講座は23回目を迎えています。また、若手僧侶たちが法話への取り組みを学ぶ「法話の実践講座」は3回実施され、それぞれの講師から異なる角度からの話を聞くことができました。

次に、「東三河夏期講習会」。これはかなり以前から東三河4・5・6組で実施されてきた伝統ある講習会ですが、まさに地域の事業ということでセンター事業としています。

また、「市民公開講座」、「声明講習会」は別院事業を継続する形で実施されています。昨年度は市民公開講座を別院世話会事業の「御坊さん秋まつり」と共催し、多くの方が参加されました。毎年、本山などから講師を招く声明講習会には東三河地域以外の参加もあります。

さらに「吉田御坊合唱団」よしだごぼうがっしやだんを結成して毎年開催される「合唱の集い」には、真宗門徒以外にも参加され、歌を通して仏さまの教えに出遇う大切な場となっています。

毎年10月ごろに発行される「報恩講日程案内」は、東三河地域の全寺院の報恩講へどなたでも参詣していただけるように作成されています。

これらの事業を継続しつつ新規の事業を模索し、若手僧侶の方々が中心となって運営されていくことでしょが、ご門徒の参画する事業が少ないことが懸念されることです。センター発足以前、東三河地域には4・5・6組による「同朋大会」という大事業がありました。ご門徒の中には「同朋大会のような地域の僧侶が共に出遇える場を」という声があることを忘れてはならないと思います。



聖教学習会 講師：平原 晃宗 氏



市民公開講座 講師：河合 敦 氏

豊橋別院紹介

豊橋別院の始まりは、1534年に吉田川毛に設立された惣道場（門徒によって運営される聞法道場）だとされます。その後、1574年に現在の花園町に移転しました。同時に、近くにあった浄圓寺・正琳寺もあわせて花園町へ移転、間もなく仁長寺・應通寺・蓮泉寺も移転しました（以上すべて第4組の寺院）。これら五カ寺は、豊橋別院の護持に大きな役割を果たしました。この惣道場には1583年に本願寺第11代顕如上人より証如上人の絵像が、1595年には第12代教如上人より顕如上人の絵像が下付されています。

1605年頃から「誓念寺」の寺号を公称するようになります。この寺号は仁長寺に伝わる親鸞聖人御影の裏書に確認できます。この頃には境内が徐々に整い、堂宇が備わったと思われます。また、1614年に第13代宣如上人が継職された後、「御坊」（地方に位置する地方本山として本山と末寺・門徒をつなぐ重要な役割を果たす寺院）に取り立てられ、吉田御坊の名で親しまれました。1644年には、浄圓寺門徒の高須九太夫氏が願主となり、梵鐘を鑄造しました。この梵鐘は太平洋戦争の供出も免れ、現在

でもその音を響かせています。

1836年には第20代達如上人の命により境内地の拡張と堂舎の再建が企画されました。募財や材料調整が整いつつある中、1858年に本山両堂が類焼してしまいます。これを受け、集めていた建築用材を本山へ寄進、それらは阿弥陀堂の再建に使用されました。

その後改めて造営が進んだようですが、1871年に本堂縁下より出火、境内建物の多くが焼失してしまいます。さらに、1873年には明治政府より廃寺の命が出されますが、何とか存続し、1879年に「豊橋別院」へと改称、再興が許されました。

1881年には境内を拡張、本堂をはじめ様々な建物を新築しました。1930年には庫裏が改築され、境内地は2564坪に達しました。1940年には創立三百年記念法要が厳修されました。

しかし、1945年6月の太平洋戦争における豊橋空襲により、豊橋別院および五カ寺は全焼してしまいます。ご本尊は疎開しており無事でしたが、戦後区画整理により別院境内地は半分以上に縮小することとなります。五カ寺も移転、それぞれ境内地を狭められました。

その後、1948年には仮御堂の上棟式が行

われ、花園幼稚園も開設、2年後には仮御堂が落慶、さらに2年後に鐘楼堂も再建されました。1985年には現在の本堂が落慶、1994年に創立三百五十年記念法要厳修、2001年に蓮如上人五百回御遠忌法要厳修、2015年に宗祖親鸞聖人七百回御遠忌法要厳修と、東三河地域の中心道場としての役割を担い続けています。

参考資料…『吉田御坊』真宗大谷派豊橋別院、

第5組願照寺住職作成資料



豊橋別院

くまのかんじんじっかいまんだら 熊野観心十界曼荼羅」絵解き

第16組 本證寺
おやま ほんしょうじ

小山 興円
こうえん

住所…安城市野寺町
野寺26番地



仏教の宇宙観を描いた曼荼羅で、輪廻と悟りの世界を表現しています。中世から近世にかけて、熊野詣を勧めるため、熊野比丘尼が



熊野観心十界曼荼羅図(本願寺派照雲寺所蔵)

往来で絵解きをするために携行していたのが、この「熊野観心十界曼荼羅」です。

画面は中央の「心」の文字を中心に、上下に大きく二つに分けられています。

日輪月輪の下、大きな山が画面を占めています。頂のすぐ下には阿弥陀如来と諸菩薩によって「仏」と「菩薩」、山の右端に「声聞」、左端に「縁覺」の「四聖」が描かれます。

この「四聖」と迷いの「六道(地獄」「餓鬼」「畜生」「修羅」「人」「天」)を合わせて「十界」といい、「心」の文字は、十界全てと赤い線によって結ばれており、十界や生死の区切りは鳥居によって示されます。これは、人の心や行いによって死後の世界が決まることを示しています。

上部にひと際大きく「老いの坂」が描かれ、私たちの一生である「人道」が表現されています。

生まれた赤子は鳥居をくぐり、少年から青年へと成長し、結婚して伴侶と共に頂で栄華を極めます。

しかし止まることなく坂を下りながら、やがて老いて死を迎えます。山坂によって「生老病死」が象徴的に描かれています。

一生を終えた男は画面下部の世界へと導かれていきます。三途の川を渡り、奪衣婆にはぎ取られた衣は衣領樹に掛けられ、業(罪)の重さが計られます。そして閻魔王の審判により行き先が決まります。

大半の者が生前の罪に応じて、修羅道、餓鬼道、畜生道、あるいは大きく描かれる地獄道に堕とされます。地獄では血の池や刃葉林永沈といったおぞましい責め苦に悶絶する亡者の姿がリアルに描かれます。

誰もこんなところには堕ちたくない。罪を犯さずにおれない凡夫の恐怖心を煽り、追善供養を勧めるのがこの曼荼羅の主眼の一つです。

と同時に、「心(私)」と「阿弥陀如来(浄土)」とを最短距離で結ぶところに、南無阿弥陀仏(お念仏)の救いも描かれており、大変有難いです。

共学研修室始動のお知らせ

2021年度より協議を重ねてまいりました

た教区教学研鑽機関「共学研修室」が今年度からいよいよ始動いたします。今期の概要を以下に記しますので、ご一読ください。ご参加お待ちしております。

第1期共学研修室 概要

◆ **設置の願い**／親鸞聖人はその生涯で何を求め続けられたのでしょうか。親鸞聖人は法然上人との出会い、お念仏との出会いによって「本願力にあひぬれば むなくすぐるひとぞなき」と言い切れる仏道を歩まれました。そこには、踊躍歡喜するほどの感動がありました。この感動は、聖人に留まることなく、その時代その環境の中で苦悩する人々の上に、確かな人生の歩みを開いてきました。

今を生きる私たちには、私たちの思いを超えて、お聖教の言葉が届けられています。これらの言葉から何が聞こえてくるのでしょうか。お念仏の教えによって私たちにはどのような生き方が開かれるのでしょうか。私たちは自分自身の中にある素朴な問いを足掛かりにして、共に聞法しあつ学場を作りたいと願い、岡崎教区共学

研修室を開設いたします。

◆ **期間**／2024年12月～2027年3月

◆ **学習内容**

① **講義**…鶴見 晃氏（同朋大学教授）より 正信偈を学ぶ。

② **事前学習**…講義に関する予習。

③ **事後学習**…座談と小レポート作成。

④ **攻究・座談**…研修生が各々の課題について話し合う。

⑤ **特別講義**…鶴見先生以外の講師を招いた学習会。公開学習会。

⑥ **宿泊研修**…任期内に一度、学びの総決算として行う。

⑦ **レポート**…最終年度に4000字程度のレポート提出。

◆ **日程**

第1回 2024年12月17日(火)

14時30分～18時

第2回 2025年1月20日(月)

14時30分～18時

第3回 2025年2月20日(木)

14時30分～18時

これ以降3月から6月まで月1回実施。

◆ **参加条件**

満18歳以上で真宗の教えを真摯に学びたいという意思のある岡崎教区内寺院または教会に所属する僧侶及び門徒。ただし、全日程参加を原則とする。

◆ **定員**／15名

◆ **スタッフ**

室長…本田 康英（第1組萬徳寺）

補導…稲前 恵文（六ツ美組本光寺）

芦谷 恵美（幸田組安樂寺）

佐々木 照美（第18組上宮寺）

鶴見 幹（第23組願正寺）

藤原 傳良（松平組徳山寺）

鬼頭 衛（第31組圓滿寺）

◆ **会場**／岡崎教務所

◆ **研修費**／・入学金、授業料は必要ありません。

・教務所までの交通費を支給します。

◆ **申し込み**

受講願（教区通信8月号同封）に必要事項を記入し、11月18日(月)までに教務所までご提出ください（郵送可）。受講願がお手元に無い方は教務所までご連絡ください。

◆ **その他**

ご不明な点などございましたら、教務所までご連絡ください。

岡崎教区 青少年教化通信



第34組 専念寺
曾我 一洋 さん
（1969年生まれ）
住所：静岡市清水区上1丁目10番14号

第34組専念寺さんの青少年教化の取り組みについて、住職の曾我一洋さんにお話を伺いました。

―なぜ子ども会を始めようと思ったのですか？

もともと専念寺は子ども会をしていなかったたので、自分が住職になつたらやってみたいという気持ちはありまして。今回やってみたのは、自分の子ども（5歳と2歳）の相手もできるし、子どもを集めることができれば今後のお寺のためにも良いのではないかと考えたからです。いろいろなタイミングが合つて始めることができた、ということでしょうか。

―実際にやってみてどう感じましたか？

参加者数は少なかったのですが（曾我さんの子どもを含めて4人）、親御さんに聞いたところ、参加してくれたたちは「楽しかった。」と言ってくれていたそうなので、やって良かったです。しかし、門徒さんから子ども会について反応が無かったことは課題です。

寺報で周知したのですが、次からは他のPR方法も考えたいです。また、門徒さん以外の地域の方々に対しては今回周知しなかったたので、それらも必要だと思いました。

レクリエーションの時間を元教員の門徒さんに担当していただいたことはありがたかったです。お寺の人間だけですべてやろうとすると大変なので、

―今後はどうしていきたいですか？

また来年同じ時期にやりたいと考えています。寺報を年2回春と秋に出しているの、それにあわせて秋にもやってもいいかもしれません。

以前、子ども会を組でやったこともあり。参加者がたくさん集まってくれたことは良かったのですが、準備も大掛かりになり、大変でした。その時に個々のお寺で小規模でやった方が長続きするのでは、と感じました。ですので、今後少人数でも何とか続けていきたいです。

『子ども会相談室』について

教区教化委員会の青少年教化部会では、教区内寺院の子ども会設立・充実に支援する「子ども会相談室」という事業を行っており、今回の専念寺さんが初めての支援事例となりました。

部会では「子ども会を始めたい」「子ども会について相談したい」という寺院を随時募集しておりますので、ご興味のある方は教務所までご一報ください。

日 程	
10:00	住職によるお話。 阿弥陀仏の仏像を見てもらいながら話した。
10:20	レクリエーション。空気砲、ドライアイスを使った遊び、ブンブンごまなど。
12:00 頃	終了

〈岡崎教区青少年教化通信について〉

このページは教区教化委員会の青少年教化部会に協力いただいています。部会では、活動の「環」として寺院での青少年教化の取り組みを取材しており、「岡崎教区青少年教化通信」は、その内容をまとめたものです。今後さまざまな活動事例を紹介してまいります。



協力していただいたご門徒さんたち



ドライアイスを使った遊びを楽しむ子どもたち



住職のお話



住職と青少年教化部会員で打ち合わせ

みんなの掲示板 おいでんみりん

日 日時 会 会場 講 講師 内 内容 テ テーマ 持 持ち物 費 参加費 対 対象 問 問合せ

※新型コロナウイルス感染症の影響により、急ぎよ変更となる場合があります。

教 区

「靖国問題学習会」

日 12月4日(水)

講 大東 仁氏

(名古屋教区圓光寺)

内 真宗大谷派の人間としてなぜ靖国問題を学ぶのかということを確認する。

費 無料

会 岡崎教務所

0564-221-2136

地 域

三河地域教化センター

「真宗の葬儀」

「葬儀・死・儀式」について

日 9月9日(月) 14時～16時

講 鬼頭 武志氏(本山堂衆)

葬儀のおつとめ

費 500円

持 真宗大谷派声明集、または

大谷声明集

会 三河別院

0564-211-0625

東三河地域教化センター

「聖教学習会 歎異抄に聞く」

日 9月13日(金) 14時～16時

講 平原 晃宗氏(大谷中・高等学校宗教科講師、京都教区正蓮寺)

テ 歎異抄第12条

費 500円

会 豊橋別院

053215215083

「声明講習会」

日 10月11日(金) 13時～17時

講 藤原 忍氏

(本山定衆、大阪教区光善寺)

テ 内陣における声明作法

費 無料

持 大谷派声明集、「真宗の儀式」、間衣、輪袈裟、直綴、五条袈裟、半装束念珠、中啓、白服など

対 教区内住職、寺族

会 豊橋別院

053215215083

「市民公開講座」

日 9月28日(土) 13時30分開始

講 落合 恵子氏

(作家、クレヨンハウス主宰)

テ 生命の感受性「心のアンテナ、磨いてますか？」

費 無料

会 豊橋別院

053215215083

赤羽地域教化センター

「儀式作法研鑽会」

日 9月2日(月)

10月7日(月)

14時～16時(2回とも)

講 織田 顕慶氏(第8組宿縁寺)

報恩講 お勤め

費 無し

会 赤羽別院

第13組長壽寺

0563-7217247

静岡別院

「別院さんの公開講座」(法話)

日 10月13日(日) 14時～16時

講 佐野 明弘氏

(大谷専修学院院长)

テ 信心に迷う

日 11月13日(水) 14時～16時

講 武田 定光氏(東京教区因速寺)

テ 阿弥陀さんの謝罪

費 無料(2回とも)

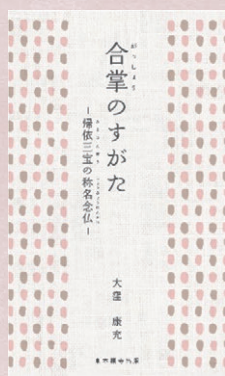
会 静岡別院

054-253-11737

書籍の紹介

合掌のすがた

― 帰依三宝の称名念仏 ―



どうして念仏申すのか――。

本尊と向き合う時と場が喪失されつつある現代において、親鸞聖人の言葉やその姿勢から、本尊を前に合掌し、南無阿彌陀仏と称えることの大切さを尋ねる小冊子です。本山HP、または岡崎教務所からご注文いただけます。ぜひご覧ください。
東本願寺出版
110円(税込)

組、有志で公開学習会の案内掲載希望の場合は教務所へお問い合わせください。『MAST』は年3回の発行予定です。紙面の都合で、掲載できない場合があります。

※内容は変更となる場合がございます。詳細は教区・団体については教務所、地域については各別院までお問合せください。

『MAST』表紙写真募集のお知らせ

『MAST』は年3回、1・5・9月に発行しており、表紙写真を教区の皆さまから募集しております。

次号第12号は1月の発行となります。写真撮影が趣味の方、ぜひお持ちの写真をご提供ください。お待ちしております。

※都合上、提供いただいた写真を使用できない場合もございます。

【提供方法】

岡崎教務所のメールアドレス：
okazaki@higashihonganji.or.jp
宛てに写真のデータを添付して
ご送付ください。



これまでの表紙写真

住職任命

第4組 淨福寺 大橋 崇

第8組 圓満寺 水頭 英樹

第16組 西心寺 近藤 祐賢

〔2024年4月28日任命〕

編集後記

先日、三河別院にある方より一通のメールを頂きました。「真宗の教えに感銘を受けたため、真宗の生活についていくつか教えて欲しい。」概ねそのような内容のメールでした。とてもありがたい内容のメールです。しかし一同、文字で頂いた問い・思いに対して、文字でお答える難しさを痛感しました。

一方で文字は何度でも読み返す事ができます。何度でも読み返して書き手の気持ちに思いを馳せる事ができる、それが文字の良いところなのかもしれません。（編集：あんど）

法語

私たちのいのちは、
ただ不思議ということに
支えられてある

松本 梶丸

まつもと かじまる
松本 梶丸

1938年（昭和13年）～2008年（平成20年）石川県松任市（現・白山市）に生まれる。真宗大谷派本誓寺前住職。

※この法語は『お東さんの日めくり法語カレンダー』（東本願寺出版）より抜粋しました。

みなさまの声をお聞かせください

『MAST』に対するご意見、ご要望をお寄せください。下記メールアドレスにて受け付けております。より多くの方に、手に取っていただける広報誌にするためにみなさまのご協力をお願いします。

岡崎教務所（MAST担当）okazaki@higashihonganji.or.jp



見つけよう、生まれた意義と生きる喜び
～生活の中心に南無阿彌陀仏を～

岡崎教務所 ☎ 0564-22-2136



岡崎教区ホームページ



岡崎教区facebook